

# 新たな発展段階に応じた経営改善支援

## ■ 管内認定農業者、認定新規就農者等担い手農業者 ■

（東讃農業改良普及センター 岩田昇、河田光男、○三木紀子）

### ●対象の概要

東讃管内の認定農業者は606経営体（平成28年3月末現在）であり、水稻と園芸作物を組み合わせた複合経営や施設園芸、畜産など様々な経営が行われている。

近年では、企業参入や集落営農組織の法人化などにより、法人形態の認定農業者は増加傾向にあるが、個別形態の認定農業者は高齢化などにより認定の更新をしない者もあり、全体の認定農業者数はほぼ横ばいの傾向にある。一方で、将来の地域農業の担い手として期待される新規就農者は増加している。

### ●課題を取り上げた理由

経営体の発展度合いにより、求められる支援は異なっている。そこで、それぞれの経営体が求める支援を効率的に行うため、東讃農業改良普及センターでは平成15年度より「サクセスフル農業セミナー」、「パワーアップ農業セミナー」として農業簿記や経営分析だけでなく法人化、マーケティング、労務管理など種々の研修会を開催し、包括的な農業経営改善支援を行ってきた。

平成28年度はこれまでのセミナー内容を再編し、新たな発展段階への挑戦に対する支援として、農業法人化推進セミナーや6次産業化セミナーを、経営管理能力向上支援として農業簿記講座を開催し、経営改善支援に取り組むこととした。

### ●普及活動の経過

#### 1 東讃地域農業法人化推進セミナーの開催

管内の法人化志向農業者を対象に、（一社）香川県農業会議との共催により東讃地域農業法人化推進セミナーを開催した。

セミナーでは、「事例から見る農業経営の法人化」と題して香川県農業経営スペシャリストの久保田英俊税理士から、法人化した場合のメリットや税金・社会保険料などの試算事例について紹介した。また、㈱日本政策金融公庫から、スーパー

L等制度資金について、情報提供を行った。

その後、5経営体を対象に、久保田税理士や農業経営課主席専門指導員、普及センター職員等をアドバイザーとして、法人化に向けた個別相談を実施した。



法人化推進セミナー 個別相談

#### 2 東讃地域6次産業化セミナーの開催

管内の6次産業化を目指す農業者や農村女性起業者等を対象に、東讃地域6次産業化セミナーを開催した。

セミナーでは、三豊市の（株）アグリデザイン Lollo Rossa代表取締役 小林憲由氏を講師に「仁尾町曾保産レモンのブランド化 ロロロッサの取組み」と題して講演を行った。講演では、事業概要や現在までの新製品開発の経緯のほか、商品にストーリーをプラスすること、目標達成までのロードマップを策定することなど、事業目標を達成するためのポイントなどについて話があり、参加者からは、商品の価格設定や補助事業の活用などについての質問もあった。

さらに、東讃管内で平成27・28年度に6次化関係事業等を活用して商品開発を行っている農業者5名（（株）ころあい、（有）赤松牧場、飯田農園、五色の里、（農）東山産業）の商品展示も行い、商品の特徴や今後の取組みなどについて各農業者から紹介した。その後、開発した商品の

試食をしながら、相互に名刺交換を行うなど参加者同士の交流を図った。



東讚地域6次産業化セミナー 講演

### 3 農業簿記講座の開催

農業簿記講座は従来からコース制で実施してきたが、今年度は新規記帳者を対象とした農業簿記基礎コースや農業者が早期に自立できるよう決算基礎コース・決算実務コースを拡充した。

農業簿記基礎コースでは新規就農者が3年を目途に自立できることを目標に、半日ずつ2日間の講座とし、複式簿記のしくみからパソコンでの記帳方法まで、講義だけでなく実技も交えた講座とした。なお、農業簿記基礎コースは、5月に津田会場・香南会場で、9月に津田会場での計3回開催し、延べ39人が参加した。



農業簿記基礎コース

また、決算基礎コース・決算実務コースでは、農業者が自ら決算まで行うことを目的に、講義資料や内容を検討し、決算整理の講義から実際自分で入力する内容とした。なお、決算基礎コースは津田会場・香南会場それぞれ2回ずつ開催し、延べ38人が参加した。また、決算実務コースは計9回開催し、延べ44名の参加があった。

## ●普及活動の成果

### 1 法人化に向けた経営管理能力の向上

法人化を希望する農業者に対し、個別に法人化相談会等を行った結果、平成28年度中に新たに4経営体が法人化し、管内の認定農業者である法人は65法人となった。

法人化推進セミナーでは、個別相談を実施した5経営体のうち、1経営体は法人化に向けて継続して支援を行い法人化した。また、残る4経営体については時期をみて再検討することとなった。

また、セミナーにおいて実施したアンケート調査では、1経営体が法人化を希望していた。

### 2 異業種交流による販売能力の向上

東讚地域6次産業化セミナーを開催することにより、農業者にとって商工業者等と交流を図ることができた。また、商品開発や販路開拓など経営発展を考える良いきっかけづくりになった。

### 3 複式簿記への理解の深化と計数管理能力の向上

農業簿記基礎コース参加者のうち8名が決算まで記帳を行った。参加者以外にも新規にパソコン簿記に取り組む農業者を含め、平成28年度の新規パソコン簿記記帳者は14名であった。

## ●今後の普及活動の課題

1 東讚地域6次産業化セミナーにおいて実施したアンケートの結果から、今後の取り組みとして商品開発や販路開拓、6次産業化の事例紹介などの要望が多かったことから、引き続き農業者の経営発展に向けた取組みを支援していく必要がある。

2 それぞれの経営体は発展段階に違いがあり、また、経営者の考えも十人十色である。それぞれの経営体にどういった支援が必要であるか、それを把握することが重要である。

経営分析や法人化、マーケティング、労務管理などの各種研修会を通じ、それぞれの経営体のニーズを把握し、それぞれの経営体に適した経営改善につなげていきたい。